

# NPO豆知識

過去にMr.ビーンズも経験したNPOが陥りやすい体制。せっかく見つけた仕事以外の生きがい。やりがいをもって活動するためのコツとは？本コーナーではNPOの謎めいた実体を、NPO1年生のしぎょうさんとMr.ビーンズと一緒に学んでいきます。

今回の？ Hatena

## NPOとうまくつきあう



こんにちは。Mr.ビーンズが積極的にNPOで活動していたのは驚きだったけど、せっかく共感していた活動だったのに、組織の中がうまくいってなかったために活動の場もなくなってしまったというのは、辛かったね。

前のお話はこちらから  
ふらぐ2107年冬号 (vol.19) 「NPOでボランティアする」  
<https://goo.gl/uTdVei>



ふん。それ以来私にとってNPOはすっかりトラウマです。NPOなんてしよせんやりがいを搾取する偽善組織ですよ。



そこまで嫌いになっちゃったの！  
ふら美先生。過去のビーンズのような状況のときにスタッフが  
できることは何もなかったんでしょうか？

Mr.ビーンズのお話からは理事や職員など、組織の中で責任や権限をもつ人の存在があまり感じられないのだけ、役割分担などのルールはありましたか？

代表にカリスマ性があり、役割分担があいまいになっている組織はワンマン体制になりやすいようです。活動の幅が増えると業務量も増えるので、組織内でしっかりと役割分担のルールを設けた上でみんなが共通の認識を持って活動を進めていくことが大切ですね。組織内で努力できることがあれば、次のようなことができたかもしれませんね。

- ◎団体外から中立的な立場の人に入ってもらい、話し合いの仲介をしてもらう
- ◎活動以外での食事会などを通じて、スタッフ同士の懇親を深める
- ◎参加できる時間や役割等の決め事を、事前に明文化しておく
- ◎できないことはできないと、本音で言う など

ですが今振り返っても、そんな中で新しい体制を作っていくのは時間も根気も必要でしたし、現実的ではなかったでしょう。NPOはやっぱりわからないことだらけですよ、まったく。

ボランティアは気負わずに団体と相談して、まずは3ヶ月だけ頑張ってみるといのもいいんじゃないかな。楽しんで続けられそうだったら延長すればいいんだし。そうやっていろいろな関わり方ができるのもNPOの魅力だって、先輩のタチバナさんも言ってたよ。

そうばい！  
ボランティアは楽しく  
やらんと意味ないばい！

ふーん、そう言われてみればそう  
かもしれませんがね。まあいろいろ  
お話できて楽しかったですよ。  
まだどこかで会いましょう。

おしまい

登場人物

しぎょうさん

一般企業を辞めてむなかた市民フォーラムに転職してきたNPO1年生。(ハイボールを飲みながらつまむピスタチオが大好き)

ふら美先生

NPOセンターに勤める丁寧なサポートが評判のお姉さん。



Mr.ビーンズ

NPOというものの実態がよくわからず、うんざりしているしぎょうさんの友達。(しかし美のところがNPOにすごく興味がある)



カタログム代表  
株式会社三角形代表取締役  
むなかた市民フォーラム理事  
福岡 佐知子

無職のボランティアから任意団体を立ち上げ、株式会社をつくり、ワインバーを始めてしまった現在に至るまでの5年間。今や笑い話、紆余曲折ないまっすぐ一本道の私の物語。

成り行きのままに始めた飲食業にはいくつもの効果がありました。それは誰にでも開かれていること、そこから人とのつながりが増えることです。そして、それにお金をいただけるといふことです。おかげで、事務所兼BARから総業店へと商店街のシャッターを開けることができました。私たちのお店のお客様は、言葉は悪いです、共犯者です。街を楽しく、彩り豊かにしていく仲間です。ですので、自主事業ではその機会の提供や再投資を心がけています。

おわり

事務所を持ったこと、その事務所を「場」として開いたことで、何も持っていなかった私たちは有形無形問わず沢山のものに恵まれました。やっと自分たちなりのスタートをきるべく、2015年事務所を移転。2016年にはその事務所を夜からワインバーとし、昨年12月には隣に洋風総業店をオープンしました。4年目にして、まちづくりNPOであるカタログサンカッターと企画とPRの会社である株式会社三角形の両輪をもって、経済的にも気持ち的にもやっと立ち上がったのです。引越した場所は、13店舗中8店舗が空き店舗という黒崎で一番小さな商店街でした。

Story 04 4年目にして やっと始まる



## Furagu News

ふらぐを一緒に作りませんか？  
大学生、フリーランス、主婦など地域とつながりたい人を募集します！



ボランティアライター募集！

- ◎宗像での人とのつながりを広げたい人 **こんな人にオススメ**
- ◎まちづくりやデザイン業務に関心のある人
- ◎NPOに興味のある人

### 仕事内容

ふらぐのテーマに沿った地域の取り組みを取材していただきます。取材内容、担当箇所などは相談しながら進めます。

### 条件

年4号発行(6月、9月、12月、3月)に携われる方。1号につき2~3回、平日昼間の会議に出席できる方。取材に要する交通費を支給します。

### ご応募・お問合せ先

宗像市市民活動・NPOボランティアセンター  
Tel: 0940-36-0311  
mail: munakata@mcforum.jp

## 宗像特産品 プレゼントコーナー

岬のね~ちゃん「いかごはんの素・魚みそセット」が当たる!!

右記QRコードまたはURLからアンケートに答えていただいた読者の皆様の中から抽選で、「いかごはんの素・魚みそセット」をプレゼント!



<http://urx.red/1Ei3>

素材のまま、母(ママ)の味、そのまんまご飯に合う!

提供いただいたのは宗像市鐘崎漁港の漁村女性グループ、岬のね~ちゃん。いかごはんの素は鐘崎漁港でとれた新鮮なイカの味を引き出すため、地元マルヨシ醤油だけを使った炊き込みご飯の素。魚みそはブリ、イサキ、ヤズなど旬の魚を加えた味噌で、ゴマ油とシヨウガの風味が食欲をそそります。この2商品に刺身用ヤリイカ、ワカメの茎の佃煮、めかぶを加えたセット商品「まんま便」もオススメです!



お米2合に混ぜて炊いてください 旬の魚を使った魚みそ

【販売店】道の駅むなかた、赤馬館 【商品】いかごはんの素(2合分) ¥550、魚みそ ¥300  
【お問合せ先】E-mail: misakionechan@yahoo.co.jp 【facebook】「岬のね~ちゃん」で検索

¥0 TAKE FREE

むなかた市民フォーラム

<http://forum-munakata.org>

# むなかたNPOマガジン

Vol.20 SPRING



この世界に  
ロマンがある

¥0  
TAKE FREE

12  
つぶめ

地元の魅力を  
パフォー  
マンスで  
表現する

▼NPO入口図鑑  
▼ボランティアライター募集!

いかごはんの素・魚みそセットが  
当たる!!

宗像特産品  
プレゼントコーナー

詳しくはウラ面を  
ご覧ください。

NPO豆知識 NPOとうまくつきあう

最終回 やりたいことのつくり方、ではなく、つくり方



好奇心旺盛なタチバナくんが地域にのしかかる課題について取材してきました。

# 地元の魅力をパフォーマンスで表現する



取材に行ってきたばい

よさこいは手段であって目的ではない。福岡の魅力を「よさこい」という手段を通じて発信する「よさこいチーム流(ながれ)」の取り組みに迫った。

## よさこいは福岡の魅力をPRするひとつの手段

糸 島市に拠点を置く「流」はただのよさこいチームにあらず、よさこいの枠を超えたパフォーマンス集団である。「福岡を勝手にPR。自分たちなりの福岡を表現し世界に発信する」というビジョンを掲げ、福岡らしさを追求するスタイル。衣装には博多にわかや山笠の法被を取り入れ、よさこい定番の鳴子は博多どんたくで使われるしゃもじに持ち替える。パフォーマンスを鼓舞するあおりは博多弁。福岡のご当地ネタも満載で、単なるよさこいにとどまらない華やかさが見る人達を魅了する。

チーム結成は2005年。代表の合志徹さんが福岡でよさこいをやりたいという思いから、男性3人、女性2人でスタートした。結成してから半年、初めて出場した「ふくこいアジア祭り」。ステージに立つことはできたものの、コンテストへの出場資格は満たすことができずに悔しい思いを味わった。同祭りでの雪辱に向けてメンバーを増員し、練習を強化した。1年後には約20人のメンバーで出場し、決勝のステージまで進んだ。それから11年、2017年のふくこいアジア祭では2位に輝くなど、今では福岡で随一のよさこいチームへと成長した。

最近ではフランスやトルコなどの外国人も加わり、チームとしての厚みが増した。およそ8割のメンバーは全くの素人からよさこいを始めるという。個別でインストラクターが指導するため、2ヵ月程度で一通り踊れるようになるそうだ。

## チームという組織を形作る

13年の運営の中で組織体制も充実させていった。運営を指揮する取締役会や小道具の製作部、広報部など6~7の専門部署が設けられており、メンバーはいずれかに所属することになっている。そして、踊るプレイヤー以外がチームに関わる余白もある。「これまではプレイヤーができなくなるとチームを去るしかなかったのですが、そんな人たちもチームに関われるように裏方を担う部署も作りました」とチームの運営を指揮する寺崎博俊さん。これだけの大所帯でチームを運営するにあたり気になるのはお金の工面。小道具や移動費など必要な経費は、会費や公演の謝礼など自分たちの費用ですべて賄っているという。現在は、糸島を本部として久留米、東京に支部があり、総勢50人を超えるメンバーが在籍している。



見る人を魅了する華やかなパフォーマンス



笑顔が印象的な寺崎博俊さん

## 会社経営をしながらチーム運営に関わる

流には中高生から40代までのメンバーが在籍する。そんなメンバーを結成当時から見守り続けているのが寺崎さん。福岡市の西区で会社を経営しながらチームの立ち上げ期からずっと関わり続け、代表副代表とともにチームの運営を仕切っている。きっかけは代表の合志さんに声をかけられたことだった。「友人のお兄さんの合志さんから一緒にやらないかとメールをもらいました。当時は19歳で最初はよさこいが何かすら全くイメージが湧きませんでした。やるなら最初からいたほうがいいのかと思いメンバーに加わりました」。長らくチームに関わってきたことで仲間や地域のつながりが増えたという。「もし流に関わっていなかったら、自分は今頃どうなっていたらだろうと思います」。また地域に根ざした活動をすることで様々な効果もある。「毎年11月に行われている波多江校区の文化祭では、いつも公民館を使用している団体としてボランティアで演舞を披露させていただいています。そこで見たという方からの依頼で、地域の福祉施設や幼稚園、地域のお祭りなどに年に数回ほど演舞を披露する機会をいただいています」。



チーム結成時はたった5人から

## プロフィール よさこいチーム流

- 【団体概要】
- ◎練習は毎週土曜日18~22時、糸島市波多江公民館
- ◎小学5年生以上であれば所属可能
- ◎5月13日、8月25日にはチーム説明会を実施予定  
詳細は流のWEBサイトなどで発信予定



地域でのパフォーマンスを見た中高生が「かっこいい」と憧れをもってメンバーになることもあるなど、地域と団体に相乗効果を生む。

社会人生活で学んだことがNPOやボランティア活動で活かせるケースは多いが、寺崎さんの場合も会社経営で得たノウハウがチーム運営にも活かしているという。「広報戦略やマーケティングスキルなど会社経営で培ったものが活かしています。最近は動画コンテンツを充実させたりWEBでの発信を強化しています」

今後の展望については「毎年7月にフランスで開催されるJAPAN EXPOに出場し、福岡の魅力を世界の人たちに感じてもらいたいと思い描いています」と大きな夢を抱く。チーム流はよさこいという手段を使って福岡の魅力を表現する芸術集団なのだ。

タチバナくん、今回の取材も勉強になりましたか？



勉強にやってきましたばい！



Profile  
くりはら あい  
栗原 愛さん  
現役高校教師  
NPO法人コモンビート 九州立ち上げスタッフ



## やりたいことの見つけ方

100人の市民が100日間で舞台を創り上げるミュージカル A COMMON BEAT。参加資格は「やりたい気持ち」だけ。キャスト経験を経て九州公演立ち上げスタッフとなった栗原さんに、活動のきっかけと想いを聞いた。在学中に国際協力のボランティア活動に携わっていた栗原さん。教師の道に進むが、国際協力に取り組みたいという心残りもあり、本腰を入れられないまま社会人生活を送っていた。そんなとき、楽しそうにコモンビートの舞台稽古に取り組んでいた知人を思い出した。歌やダンスなどしたことがなかったが、全く新しい挑戦で気持ちを切り替えようと思い、キャストに応募した。

100人で一つの舞台を創る中では多様な人とのぶつかり合いがあり、自分がどんな人間なのか、嫌というほど思い知らされた。父親が学生のときに亡くなったことで、誰にも頼らないで生きていかなければと思い込んでいたことに気づかされた一方で、自分には考えや想いを伝えて人と繋がる力があることがわかった。歌って踊って自分を表現することで自然と心が開かれていき、素直に人を頼ることができるようになった。

関西から故郷の佐賀に移った栗原さんの元に、ある日コモンビートの仲間から連絡が入った。「九州で絆を作りたい。手伝ってもらえないか」。当時東京・中部・関西地域でしか公演の

なかったコモンビート。キャスト経験のある人は九州に数名しかいなかったが、九州初の舞台を実現させたかった。100人キャストが集まるかわからない状態でキャナルシティ劇場を下させたときは、なにがなんでも100人集めると腹の底から決意した。アシスタントプロデューサーとなった栗原さんは様々なイベントに顔を出してはキャストを募集して回った。「平日は仕事を終えて夜から、土日は部活の顧問の仕事の合間をぬってコモンビートのキャスト集めや体験会をしていました。今考えてもよくやったと思います。すごく大変だったけど、すごく楽しかった」。そして2013年6月、九州初公演の夢を叶えた。

舞台を成功させるまで、本当に自分がやりたいのは教師なのか迷っていた。けれど目の前にあるやりたいことをやりきったとき、心から教師を頑張りたいと思った。栗原さんは今、全力で生徒に向き合っている。そしてその中でまた新しくやりたいことが見え始めている。コモンビートに出会って自分の気持ちに正直に生きる心地よさを知った栗原さんは、これからもど



どんやりたいことに出会い、ステップアップを続けていく。  
取材/執行沙恵

## Furagu News

## 本の屋台まちライブラリーに登録！

2017年2・3月に開催した「本の屋台プロジェクト」。このプログラムで製作した本の屋台がまちライブラリーに登録されました。まちライブラリーのページには、現在展示している本などが紹介されています。希望に応じて本の屋台を貸し出すこともできます。興味がある人はお気軽にご相談ください。

詳しくはPC・スマホから下記、検索してご覧ください。

📄📱 まちライブラリーメイトムむなかた 🔍



本はどなたでも閲覧できます  
パンフレットも設置しています



週に一度の練習は男女合同で

明るく賑やかなメンバー

ふくこいアジア祭りでのパフォーマンスの様子